

“受診”から取り残される子どもたち

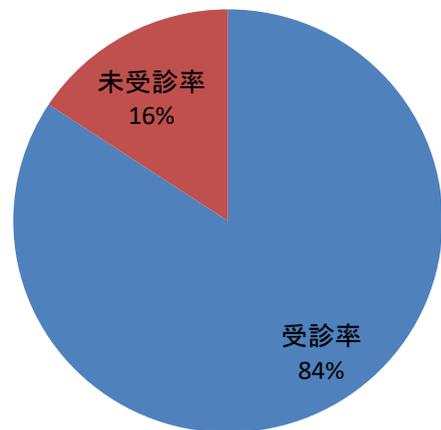
2019年学校健診後受診状況
調査結果(山形県内分)
山形県保険医協会

調査概要

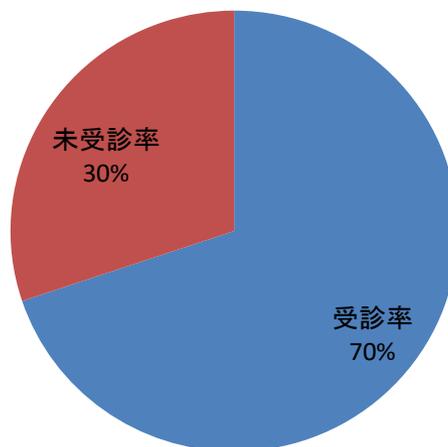
- 山形県保険医協会が加盟する全国保険医団体連合会が全国の公立・私立の小・中・高校・特別支援学校を対象に2019年4月1日～6月30日にかけて調査票を郵送し、返信用封筒またはFAXにて回答を得た
- 山形県内では399校に調査を依頼し、31校から回答を得た。回収率7.8%

「要受診」の子どもの未受診率(小学校)

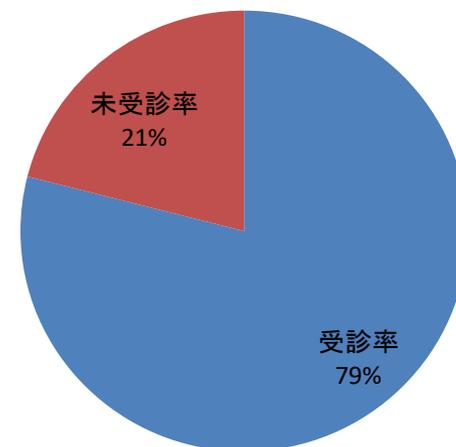
眼科健診



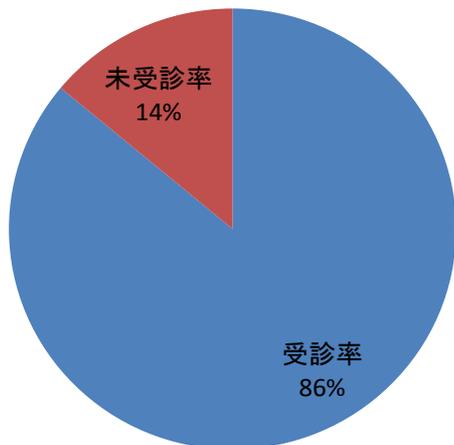
視力検査



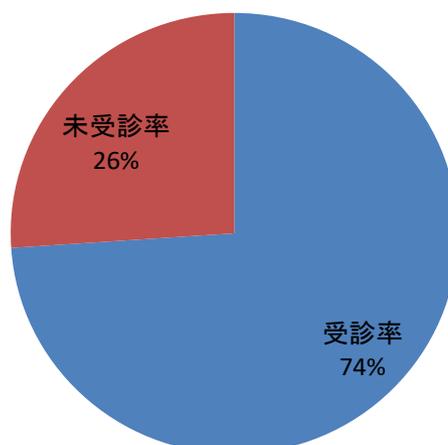
耳鼻科健診



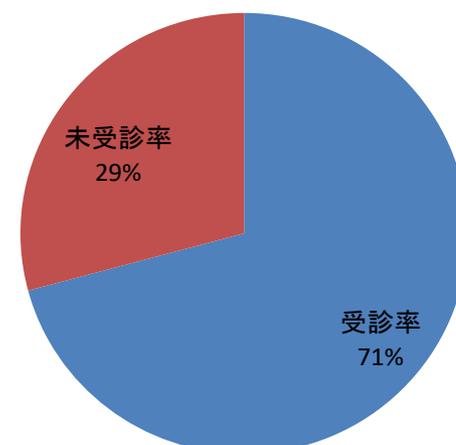
聴力検査



内科健診



歯科健診



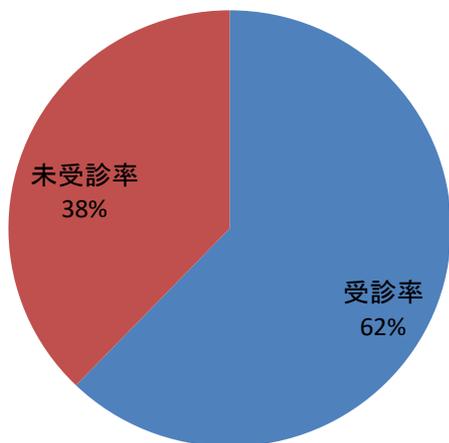
「要受診」の子ども未受診率(小学校)

健診・検査	要受診率	未受診率
眼科健診	5.43%	15.73%
視力検査	26.52%	30.14%
耳鼻科健診	13.53%	21.02%
聴力検査	1.73%	13.95%
内科健診	3.28%	26.05%
歯科健診	40.86%	29.18%

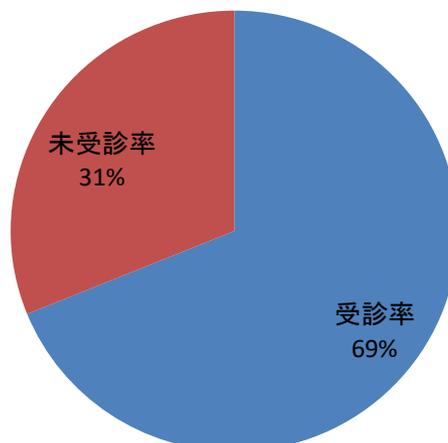
- ・視力検査、歯科健診で約3割、全体平均では約23%の子どもが未受診
- ・歯科健診の要受診率が高い

「要受診」の子どもたちの未受診率（中学校）

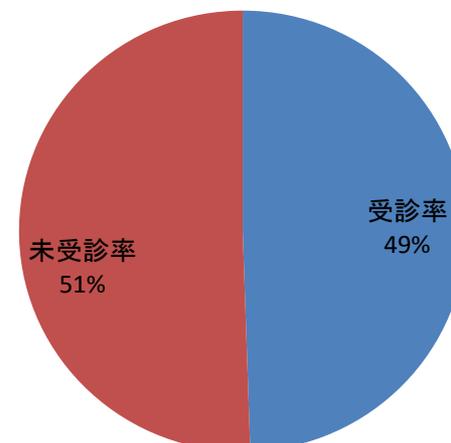
眼科健診



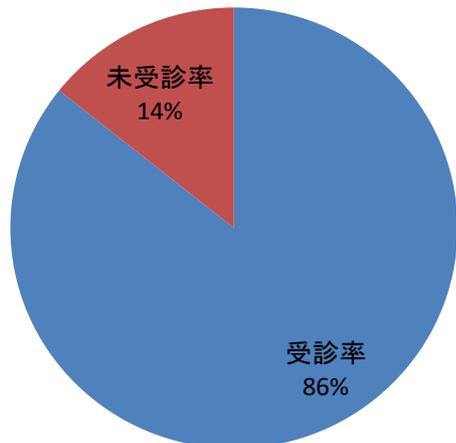
視力検査



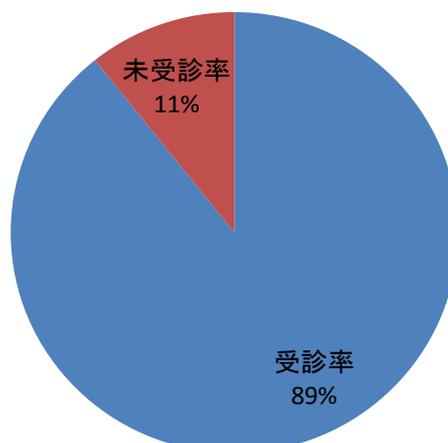
耳鼻科健診



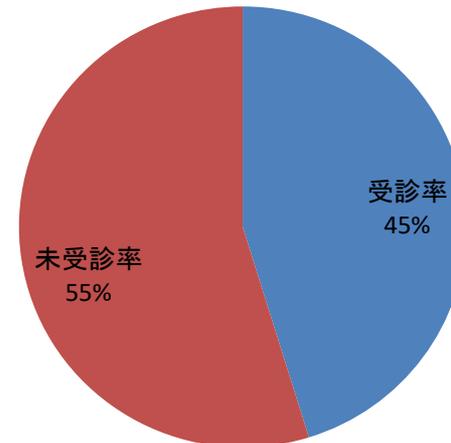
聴力検査



内科健診



歯科健診



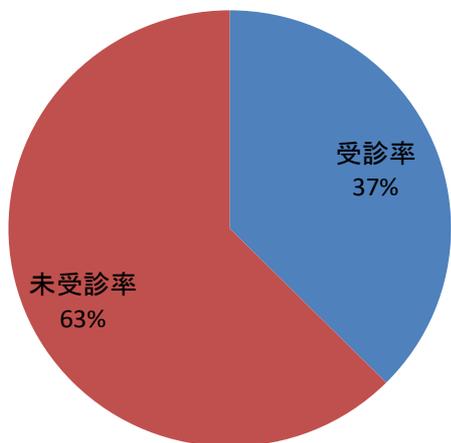
「要受診」の子どもの未受診率(中学校)

健診・検査	要受診率	未受診率
眼科健診	4.63%	37.77%
視力検査	41.08%	31.14%
耳鼻科健診	14.07%	50.54%
聴力検査	0.5%	14.28%
内科健診	1.4%	10.71%
歯科健診	25.8%	54.78%

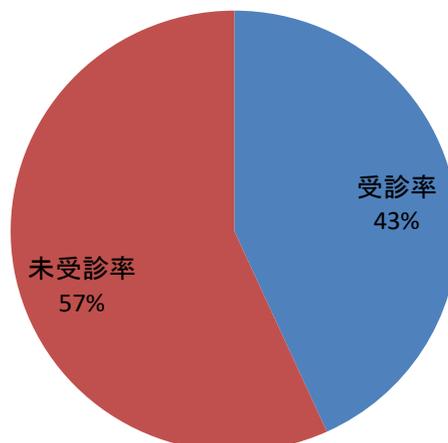
- ・小学校よりも未受診の割合が多い
- ・視力検査の要受診率が高く、聴力検査、内科健診は低い
- ・耳鼻科健診、歯科健診では5割以上、全体平均では33%の子どもが未受診

「要受診」の子どもを受診率（高校）

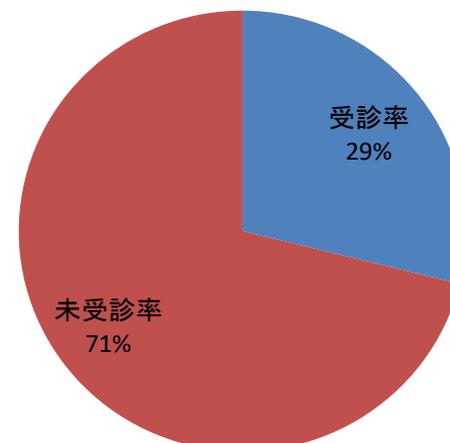
眼科健診



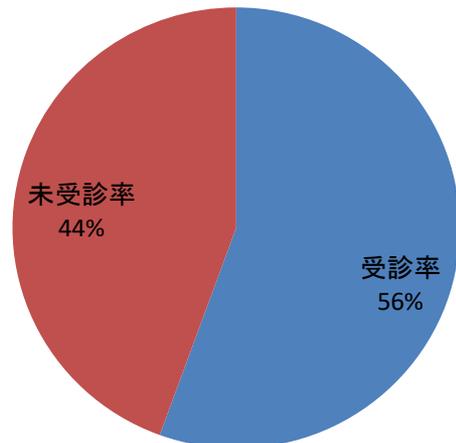
視力検査



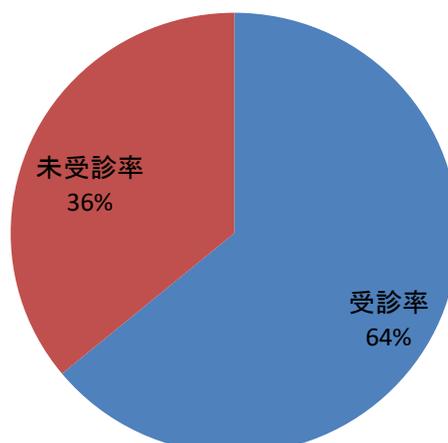
耳鼻科健診



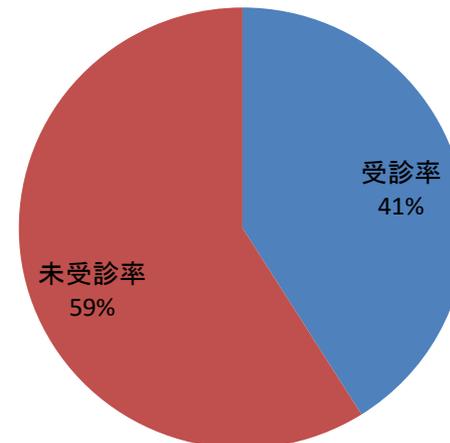
聴力検査



内科健診



歯科健診



「要受診」の子どもを受診率（高校）

健診・検査	要受診率	未受診率
眼科健診	0.68%	62.50%
視力検査	27.48%	56.79%
耳鼻科健診	5.41%	71.15%
聴力検査	1.12%	44.44%
内科健診	4.26%	36.00%
歯科健診	38.91%	58.95%

- ・小、中学校よりも未受診の割合が多い
- ・視力検査、歯科健診は要受診率が高く、眼科健診、聴力検査は低い
- ・眼科、視力検査、耳鼻科、歯科健診で5割以上、全体平均では約55%の子どもが未受診

眼科事例—「黒板がほんとうに見えません」

- 視力が弱い子が多くて席替えのとき配慮しきれない
- 見えないため授業ノートがとられていない生徒もいた
- 「黒板がほんとうに見えません」という生徒がたくさんいる
- 受診をうながしても「忙しいから連れて行ってもらえない」「眼鏡になるのが嫌」と、受診に消極的な様子が見られる
- 保護者が子どもに聞いて「(勉強のときは)見える」と答えるので眼鏡購入に至らない

子どもの視力・学力の低下が懸念

- 保団連の全国調査の結果、視力検査、歯科健診の未受診率が高く、平均で56～57%。県内も同傾向で、視力検査では回答した小・中学校で約3割、高校は56.8%が未受診
- 昨年12月20日に文部科学省が発表した2019年度学校保健統計調査(速報値)では、裸眼の視力が「1.0未満」の子どもは小学生34.57%、中学生57.47%、高校生67.64%と過去最多
- 子どもの視力が過去最悪となっている中、視力検査の未受診率が高く、学校生活に支障が出ており、子どもの視力・学力の低下が懸念される

歯科事例 ー 授業、給食も困難に

- むし歯10本以上あるにもかかわらず、受診しない児童。かなり悪化し、授業もつらくなってようやく受診した
- 小学1年生で乳歯のほとんど18本がむし歯で、給食を食べるのがおそく時間がかかる
- 未処置歯11本で、給食の咀嚼が困難
- 乳歯がボロボロ。かたいものが食べられない。“痛くはない”と言う。保護者に面談で直接受診をうながしたが、受診に致らない
- 前歯がぼろぼろの状態であるが、そういった状態の生徒ほど、受診をしない状況

3割の学校に「口腔崩壊」状態の子ども

- 口腔崩壊:むし歯が10本以上ある、歯の根しか残っていないような未処置歯が何本もあるなど、咀嚼が困難な状態
- 県内で回答した学校の3割で口腔崩壊状態の児童・生徒がいた
- 保団連の全国調査の結果、口腔崩壊の子どもは873人。回答率から推計すると全国で数万人に上る可能性がある
- 近年は二極化し、むし歯のない子どもが増える一方で極端にむし歯の多い子どもも増えている
- 虫歯が減少傾向の中で、口腔崩壊の子どもが見過ごされているのではないか

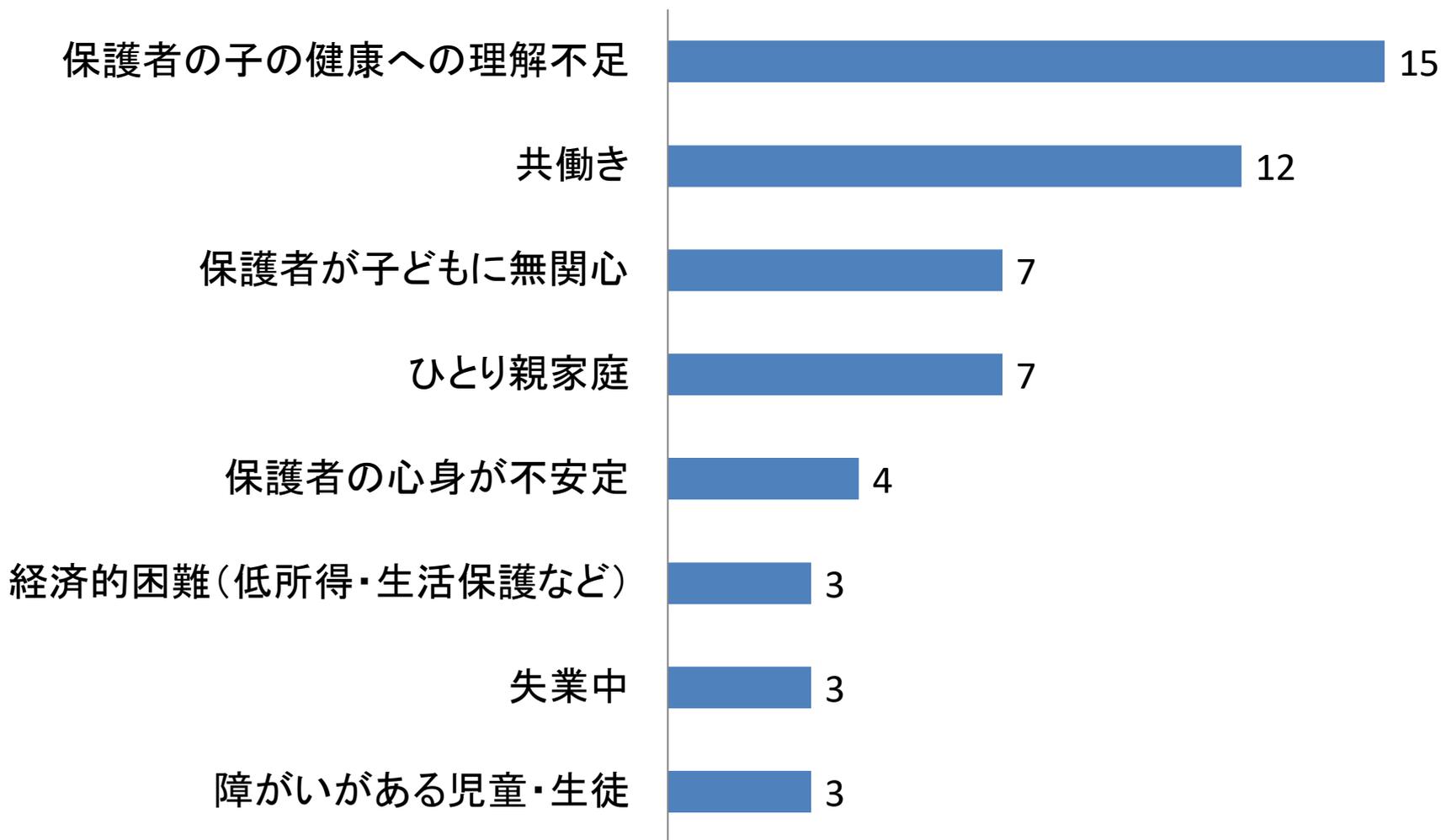
その他の事例

- じんましんを繰り返すため内科検診にて要受診判定となったが受診せず、本人はたびたび保健室を訪れる
- 喘息で“要受診”、秋の「マラソン大会」までには走れるようにと校医に指導されたが、治療が継続せず中学3年間1度も走らなかった
- アトピーがかゆそうだが我慢している(冷やして対応はよくある)

学校現場の状況（抜粋）

- 心臓、尿に関するものは再検査、再受診の指示が出ることが多いが忘れて受診しないことがほとんど。対象となる生徒が多くなるにつれ一人ずつの次回受診日まで把握して対応しなければならず、業務が非常に煩雑で苦慮している
- 受診勧告書を配布しても生徒が保護者に渡しておらず保護者が知らない事態が多々あった
- 高校3年生には進路に関わることを念押しして伝え、受診につなげているがそれでも受診率は半分程度

未受診の要因と考えられるもの (上位3つの選択式で回答)



その他の要因や家庭の事例

- 通いやすい所に歯医者等、医療機関が少ない
- 部活動による受診機会の減少
- 保護者が休みをとりにくい
- 受診や治療についても二極化が見られる
- 未受診の家庭は固定化している
- 生活困難者で生活に余裕なく働いている家庭もある

子ども医療費無料化との関係

- 県内35自治体全てで中3まで子どもの医療費が無料(そのうち約半数の18自治体では高校まで)
- ある高校の調査では、高校まで医療費助成がある地域とそうでない地域で受診率に差がなく、医療費負担が未受診につながっているわけではない
- しかし、中3まで無料で治療を受けられるので受診にこぎつけたケースや、医療費無料なので医療機関に行きやすいという声があり、無料のため受診勧奨しやすい環境にあるといえる

まとめ

- 回答した学校では小学校の約2割、中学校の約3割、高校の5割以上で未受診の状態
- 3割以上の学校で口腔崩壊状態の子どもがいた
- 視力検査・歯科健診の未受診率が高く、子どもの身体の成長、学力・学校生活に悪影響
- 未受診の要因のトップは「保護者の子の健康への理解不足」。「保護者が休みをとりにくい」、「部活動による受診機会の減少」などの要因も
- 県内は子ども医療費の無料化がすすんでおり、受診勧奨しやすい環境
- 医療費負担がないにもかかわらず受診から取り残されている子どもをどうするかが課題
- 家庭任せにせず学校関係者、医療者、行政、マスコミが一体となり、親世代の意識改革・啓発・支援が必要